

5歳児 ほし組 保育指導案

指導者 内 田 祐

子どもの思いを具体化する言葉かけや道具の提示をしたことは、子どもたちが遊びを面白くしていこうと思考することや友だちとイメージを共有しながら遊ぶことにつながったか。

1 活 動 名 こうするともっとおもしろいよ

2 7期（6月初旬～7月中旬）のねらい

- 遊びがより面白くなるように、考えたりいろいろなことを試したりする。
- 互いに自分の思いを伝え、数人の友だちとイメージを共有しながら遊んでいこうとする。
- 自然物や虫などの変化や命の存在を感じたり生き物を大切にしようとしたりする。

3 保育の構想

(1) 年長になり、子どもたちは、当番の仕事や身支度を進んでするなど、張り切って生活してきている。年少時とは変わった環境の中で新しいものを探したり新しい遊びを始めたりするなど、新しいことに興味をもつ子どもが増えてきた。例えば、園庭で泥だらけになる、クラス全員でのゲームにすぐに参加するなど、年少時には新しいことに抵抗を示していた子どもも、興味をもったことに進んで向かおうとする姿が多くなってきている。

また、友だちとの関係も深まってきている。約束をして遊ぶ、親しみをもって話すなど、クラス替えで新しく仲間になった友だちとも積極的に関わろうとする姿も見られる。しかし、昨年度に年長児や友だちに遊びをリードしてもらっていた子どもは、その時ほど遊びがうまくいかず、不満を感じることもあった。そのためにいざこざに発展することもしばしば見られた。

自然物や虫などについては、採ること・集めることに主に興味をもっていたが、大事にすることにも興味が向いてきた。

(2) 6月初旬には、新しい遊びと友だちを探していた子どもたちが、徐々に安定した気持ちになり、遊びに没頭できるようになってくると考えた。そこで、6月初旬を期の変り目とし、7期の生活を、子どもたちがより面白い遊びを追求していけるようにしていく。遊びがより面白くなるように試行錯誤をしていく過程で、子どもたちは様々な思考をしていくこととなる。新しいクラスになって、親しく関わってきた友だちと、7期では互いに思いを伝えながらイメージを共有して遊ぶ楽しさを感じてほしい。そのことが、友だちと同じめあてをもって遊びを追求し、互いの考えを伝え合って遊びを発展させていくことや、8期以降のクラス全体で向かう活動・生活にもつながっていくと考える。また、7期は、風や水が心地よく、これまでに見られなかった植物や生き物と出合える時期である。自然や生き物と関わるよいタイミングであると考え。以上のことから、7期では次のねらいと内容を設定した。

- 遊びがより面白くなるように、考えたりいろいろなことを試したりする。
 - ・自分のイメージを表すためにどうしたらよいか、時間をかけて場や道具を探したり、様々な種類の材料を使ったりする。
 - ・遊びに継続して取り組み、何回も繰り返したりより本物らしくなるよう作り変えたりする。
- 互いに自分の思いを伝え、数人の友だちとイメージを共有しながら遊んでいこうとする。
 - ・思いを実現するために、自分と同じ思いの友だちに声をかける。
 - ・友だちと一緒に遊ぶ中で、アイデアを伝えたり自分のイメージと違うことをしている友だちを気にかけてりする。
- 自然物や虫などの変化や命の存在を感じたり生き物を大切にしようとしたりする。
 - ・ミニトマトの色が変わることや春先にはいなかった虫が生まれたことなどに気付く。
 - ・自分が植えた作物や捕まえた生き物などの世話をしようとする。

(3) めあてを実現しようという意識がはっきりともてるよう、遊びを発展させていきたい。そのために、継続してきた遊びが以前と変わってきたところや、新しい友だちと遊びをつくっている姿を見付けて支援していく。

具体的なはたらきかけとして、子どものアイディアの基となる、子どもが何気なく発した言葉を問い返し、子どもがもっている思いをはっきりと意識化させていく。自分の思いをうまく友だちに伝えることができない子どもに対しては、その子どもの思いを見取り、必要な言葉を加えていく。また、遊びで見られた子どもの得意なことや優しい気持ちなどを、その場で認めて周りの子どもたちに伝えたり、共有する場で全員に知らせたりする。そして、子どもたちが新しい遊びや友だちへの興味を広げていけるようにする。

環境としては、子どもがこれまでに経験したことがあり、今の遊びとの関連があるものを用意する。そうすることで、子どもが以前に経験したことを今の遊びにいかし、遊びが発展すると考える。また、子どもが自分の思いを言葉で表現しながら、遊びに見通しをもてるようにしたい。そのために、教師が遊び集団の一員となったり遊びに必要なものを子どもに問いかける場を意図的にもったりしながら、必要な場や材料などを準備していく。

さらに、身近な泥や砂を触る経験や植物を育てる経験を豊富にできるように、環境を整える。生き物に関しては、命を大事にするという教師の意図をはっきりと示していく。子どもが考えながら飼育環境を整えられるように、飼い方の絵本や道具を用意する。しかし、「飼ってみたい」という子どもの思いだけでは難しい場合には手を貸していく。

4 予想される幼児の主な活動の展開

	考える・試す	イメージを共有する	自然や生き物と関わる
6月初旬	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのしていることを見て、自分も同じようにしたり自分なりのやり方でして見せたりする。 作りたいと思ったものに必要な材料を、探したり担任に要求したりしながら作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる子どもに他の子どもがついていき、ごっこ遊びをする。 自分のやりたい役を伝えながら、それぞれのイメージでごっこ遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> すぐ弱る生き物を捕まえることはやめたり、捕まえた生き物を飼う場を自分なりに作ったりする。 自分の植えたトマトの数や大きさを気にかける。 自分が植えた作物を楽しんで収穫し、いつも食べているものよりもおいしいと感じながら食べる。
6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 役割を決め、その役になりきることを楽しんでごっこ遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰かがやったことや作った物からイメージを膨らませ、ごっこ遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 泥団子作りの歌を教えてもらったように歌ったり、感触を楽しんだりしながら泥団子を作る。
6月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 役割に加え、ごっこ遊びに必要な設定を細かく決め、場を作りながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる子どもの提案を取り入れながらイメージを共有して遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 長く飼おうと意識をして生き物を捕まえ、本で調べたり担任に聞いたりしながらすみかを作る。
7月初旬	<ul style="list-style-type: none"> ごっこ遊びに必要なものを作ることが増える。 イメージに合った形や大きさを考えて材料を選んだり組み合わせたりする。 		
7月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要なものを友だちと一緒に作ったり、友だちの考えを取り入れて、作ったものを直したりする。 必要な分量を考えて道具や材料を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの子どもが自分のイメージを言葉に表し、互いの思いを取り入れながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫を楽しみにして、水やりや追肥をしたり苗を植えたりする。 食べる楽しみをもって作物を収穫したり調理したりする。

5 本日の生活について

(1) ねらい

様々なことを試したり友だちの様子を見たりしながら、遊びが面白くなりそうなることを取り入れる。

(2) 予想される生活の展開

<ul style="list-style-type: none"> ・経験してほしい内容 ◎学びをいかしている子どもの姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・より丁寧な関わりを必要とする子どもの姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の構成と教師のはたらきかけ
<p>8 : 45～9 : 00 登園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の遊びや家であったこと、登園中に面白く感じたものなど、登園時点で子どもが何に1番興味を向けているかを探りながら声を掛けていく。 	
<p>9 : 00 自分でみつけた遊び</p> <p>考える・試す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたいもののイメージをもち、それに合った形や大きさ、色などから材料を選んだり組み合わせたりする。 ◎今までになくうまくいったことや、きょうだいでしたこと、そのときに使ったものや方法などを取り入れて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージを共有する ・作りたいもののイメージを言葉で表し、友だちと一緒に遊びの場やお店屋さんの品物などを作る。 ◎互いの考えを言葉で伝えながら遊びに必要なものを準備したり、やり取りを楽しみ、遊びの中で必要になったものを用意したりする。 	<p>自然や生き物と関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎生き物をより詳しく知ろうとし、のぞきこんで見たり傾く方を調べたりする。 ・泥団子作りの歌を友だちと一緒に歌ったり、泥を混ぜて違う色の泥団子にしたりすることを楽しむ。
<ul style="list-style-type: none"> ・イメージがはっきりするように話を聞き、必要に応じて材料の提示をし、選択肢を広げる。できたものについても、教師が遊びに参加したり話を聞いたりし、どのように考えて作ったものかを話せるようにする。 ・以前の遊びや周りの友だちの遊び、園外で経験したことなどのつながりを見取り、話題にしていく。特に、遊びが面白くなるように意識して取り入れていくことを認めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが継続するように、ごっこ遊びのために選んだものや作ったものを継続して使えるようにしておき、それを置いておくコーナーを用意する。 ・ごっこ遊びに、教師が遊びの一員として参加し、提案や品物の注文をすることで、子どもたちが具体的なイメージをもてるようにし、年少のときよりも発展したごっこ遊びのやりとりが体験できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験に基づく知識を大切にする。幼稚園から家に連れて帰った生き物を、子どもも飼っている子どもに話を聞き、子ども同士で教えられるようにする。 ・築山の側に土を用意し、泥団子作りをしながら友だちや他の遊びを近くに感じられるようにする。教師も子どもと共に泥だんごの歌を歌って楽しむ。
<p>10 : 20頃 片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の日以降も継続したい遊びを、どのように残しておくか考えながら片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに見せたいものや残しておきたいもの、きれいにしておきたい場所などを、考えながら片付けられるように声をかけていく。 	
<p>10 : 40頃 学級で共有する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付きをみんなに伝えたり友だちの遊びの話を聞いたりすることで、さらに遊びを楽しむとすす意欲をもったり、友だちの遊びに興味をもって関わろうとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分でみつけた遊び」の中で子どもたちのやりとりをつなぐ、友だちのしていることを分かちやすいうように掲示するなど、子どもたちが興味をもって話に参加できるようにする。その上で、発見や手伝ってほしいことなど、子どもが「伝えたい」と思っていることを見取り、他の子に分かるようにしていく。 	